村田正文*・森 啓*: 大野層より *Schedohalysites* の発見

Masafumi MURATA and Kei MORI: Discovery of *Schedohalysites* from the Ono Formation

(1972 年 9 月 22 日 受理)

南部北上山地日頃市地方には、シルリア系・デボン系が知られ、これまで多くの層位学・古生物学的研究が行なわれてきた。シルリア系は川内層、高稲荷層の二層に、デボン系は大野層、中里層、大森層に区分されている。この中、大森層については種々の意見があって、その層序区分・地質時代についてはなお検討の余地があるが、ここで問題とする大野層は下部デボン系であるというのが今日までの定説となっている。今回この大野層下部に発達する石灰岩から *Schedohalysites* を発見し、大野層の少なくとも下部層はシルリア系に属することが明らかとなったのでここに報告する。

新たに発見された化石は、川内層および西南日本外帯のシルリア系にひろく知られる *Schedohalysites kitakamiensis* (SUGIYAMA) に同定される。この *Schedohalysites* の新産地は、岩手県大船渡市日頃市町長安寺の大森沢下流に発達する石灰岩層で、大久保 (1950) の Group I, 湊他 (1959) および小貫 (1969) の大野層にあたる。大久保 (1950, p. 348) はこの石灰岩をシルリア系とし、川内層に属するものと考えたが、湊他 (1959, p.73) は周囲の層序関係から大野層に属するものであることを主張した。この周辺は、林道・採石場の開発により、露出状況は当時よりも一層良好となり、詳細な検討が可能と

第 1 図 *Schedohalysites kitakamiensis* (SUGIYAMA)

1: 風化面 ×4, 2: 横断面 ×5, 3: 縦断面 ×5

* 東北大学理学部地質学古生物学教室

第2図 化石産地(×) 5万分の1地形図「盛」の一部
 なった。筆者らの調査によると、この *Schedohalysites* を産する石灰岩は大野層最下部の花崗岩・石灰岩角礫を多量に含む酸性角礫質凝灰岩層中にレンズ状に挟入するもので、この点については湊他(1959), 小貫 (1969, p.10) らの見解と一致する。

大野層の模式地、大船渡市猪川町大野には高稲荷層以上のシルリア系・デボン系が発達している。模式地における大野層には、含花崗岩・石灰岩角礫質酸性凝灰岩の上位に“ナメリ石石灰岩”とよばれる石灰岩層が発達する。このナメリ石石灰岩に産出する化石については、YABE and SUGIYAMA (1937, p. 418) が *Thamnopora ristata* (BLUMENBACH), *Favosites* cf. *styriaca* (PENECKE), *Actinostroma*, *Alveolites*, *Cyathophyllum* を報告し、後矢部・杉山 (1938, p.481) はこれを“*Thamnopora*”帯とよんだ。これらの化石から、矢部・杉山は大野層を下部デボン系に対比し、下位の川内層とは明瞭に区別できるとしたが、これらの化石種はいずれも未記載である。一方、小貫 (1956, p.24; 1969, p.13) は上記のもの他に、層孔虫、四射珊瑚、床板珊瑚などの種をリストにあげ、大野層を Coblenzian のものと考えた。大森沢において *Schedohalysites* を産出する石灰岩と大野の“ナメリ

石石灰岩”の層位関係、および大野層産未記載化石種について検討中であるが、現段階では両地域の石灰岩がほぼ同層準にあり、“ナメリ石石灰岩”もシルリア系に属する可能性が大である。また“ナメリ石石灰岩”産層孔虫に関しても、保存の点で属の鑑定は無理であり、矢部・杉山および小貫によってリストされた *Actinostroma salairicum* YAVORSKY, *Actinostroma* cf. *tenuifilatum* PARKS, *Actinostroma* sp. の存在は明確でない。詳細は後日報告の予定であるが、今回の *Schedohalysites* の発見は、本邦のシルリア紀・デボン紀の火成活動、地向斜形成の地史を再考する上に重要な新資料と考えられる。本稿を草するにあたり、北海道大学湊正雄教授、前宮城教育大学教授小貫義男博士に種々御助言いただいた。また *Schedohalysites* の資料については東京大学浜田隆士博士に御討論いただいた。ここに厚くお礼申上げる。

文 献

- 湊 正雄・武田裕幸・橋本 徹・加藤 誠(1959), 本邦古生層中の火山岩類について。地質雑, vol. 65, no. 761, p. 71—79.
- 大久保雅弘(1950), 岩手県気仙郡日頃市村のゴトランド・デボン両系について。地質雑, vol. 56, no. 657, p. 345—350.
- 小貫義男(1956), 北上山地の地質。岩手県地質説明書, II, 岩手県。
- (1969), 北上山地地質誌。東北大地質古生物研 邦報, vol. 69, p. 1—239.
- SUGIYAMA, T. (1940), Stratigraphical and paleontological studies of the Gotlandian deposits of the Kitakami mountainland. *Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., 2nd Ser. (Geol.)*, vol. 21, p. 81—146.
- YABE, H. and SUGIYAMA, T. (1937), Preliminary report on the fossiliferous Gotlandian and Devonian deposits newly discovered in the Kitakami mountainland. *Proc. Imp. Acad. Tokyo*, vol. 13, p. 417—420.
- 矢部長克・杉山敏郎(1938), 北上山地岩手県気仙郡盛町 西北方のゴトランド・デボン及び最下部石炭紀の層 序。地質雑, vol. 45, no. 537, p. 481—482.